

里山夢プロジェクト「畑をみんなの居場所に」



■みんなの居場所をつくる

「里山夢プロジェクト」では、150坪を超える広大な畑を耕して、地域のみなさんがいろいろな季節の野菜を育てています。地域の幅広い年代層の人たちが集まり、栽培や収穫の作業を行います。野菜を作ることを通して、こどもからシニアまで、多世代が交流できる居場所をつくることを目指して立ち上げた「里山夢プロジェクト」について、中川地区社会福祉協議会会長の石田五十六さんにお話を伺いました。

このプロジェクトを立ち上げたきっかけは、地域でイベントを開催しても、集まる顔ぶれはいつも同じ、新たに参加する方が増えないと、新しい交流が生まれなくなってしまい、地域の活性化が損なわれてしまうのではないかと、そんな懸念からでした。お祭りなどのイベントも、年に一度顔を合わせて「挨拶だけ」して終わりという時もあり、このような状況に危機感を抱いていました。そこで、少しでも多くの人たちに関わってもらえるように、農地の多い地域の特徴を生かした「里山夢プロジェクト」を企画し、立ち上げました。

「野菜づくりは天気の影響を受けますので、思うようにはいきません。週に1度の作業だけでは、管理が不十分です。気がついたメンバーが自主的に畑に顔を出す、台風が近づくと様子を見に行くなどして見守りながら、活動を支えていますですが、『みんなで一緒に作り上げる過程が大事』であると思っています。『一緒に考え、一緒に作業して、一緒に収穫する』をモットーにしています。」



一人一人が出来る範囲で作業を楽しんでいます

実は相鉄いずみ野線の延伸工事で、給田トンネルを掘削した時の土で、田んぼを埋め立てた畑であるため、かつては土が粘土質で耕作には不向きでした。そこで作業メンバーで集めた落ち葉を堆肥にする、牛糞を大量に入れるなどいろいろと工夫しました。慣れない作業に戸惑う人もいますが、そこは多勢の強みです。農作業に詳しく指導してくれるメンバーもいるので、みんなで心地よい汗を流しながら、作業を楽しんでいます。

興味がある方や、全く畑で作業したことない人でも安心して参加してください。毎週火曜日9時半から集まって作業をしています。



「いつでも大歓迎ですよ。」 中川地区社会福祉協議会会長の^{いしだいそむ}石田 五十六 さん

「みんなで、みんなのふるさとを！」をキャッチフレーズに、野菜づくりを通して、健康づくり、生きがいくくり・担い手づくりに取り組んでいます。



炎天下の作業の後には、色とりどりの野菜に元気をもらえる



「ビールのつまみにうまいよ。わからないことは何でも聞いてよ。」と採れたてのショウガを手にする実家が農家の萩原さん

■秋は収穫した里芋をみんなで食べる「芋煮会」を開催



畑作業はできないけれど、自分にできること、例えばイベントの企画などでも携わることができます。

この活動は、多世代がプロジェクトを通して交流する機会を創出し、そして活動参加者の健康、地域のコミュニティづくりにも貢献し、地域活動の活性化へとつながっています。



写真：芋煮会の様子

【活動日時】

■毎週火曜日 9：30～

畑の手入れなど、初歩から教えてくれるので初心者でも参加しやすい雰囲気です。

近隣にお住いの方、ぜひ一度参加してみませんか。

収穫の楽しさと手作りの野菜のおいしさが味わえます。

■場所：岡津町にある特別養護老人ホーム「けいあいの郷」の前にある
「OZAWA FARM」で活動中。

泉区事例集 2018

連長インタビュー



□中川連合町内会 こいずみ まさひこ 小泉 正彦 会長

取材：里山夢プロジェクト

地域の方に自治会・町内会の活動を丁寧に伝えたいと思い、中川連合町内会では広報誌「中川の風」を発行しています。執筆・編集を私も一緒に担当しています。

現在中川地区が抱える課題はたくさんあり、それらの課題解決に向けてさまざまな活動を行っています。

地域の見守り事業、スポーツ推進員の動き、ゴミの問題と向き合う清潔な町づくり、そして今回事例集に掲載された「里山夢プロジェクト」。

こんなに素晴らしい活動を、もっと多くの方に知ってもらいたいです。

働いている現役世代の方でも、地域でできることは必ずあります。

例えば今回の事例などは、こどもから大人まで参加できますので、ぜひ皆さんに参加してほしいと思います。